

藤 支 第 7 9 7 号  
平成 30 年 12 月 6 日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校  
校 長 藤 井 雅 乗

## 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会について（報告）

平成 30 年 11 月 26 日（月）に開催致しました学校運営協議会の要旨を報告致します。

会 長：北川 末幾子（大阪府立大学 非常勤講師）

副会長：中島 智子（大阪大谷大学 特任教授）

委 員：北村 敦（藤井寺市立藤井寺小学校 校長）

竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）

前田 行雄（藤井寺市河北地区 副区長）

松木 礼子（PTA会長）

\* 敬称略

### 1 学校見学

### 2 開会

- ・挨拶 校長 藤井 雅乗
- ・配布資料の確認

### 3 報告

#### ① 平成 30 年度 進路状況について（進路指導部）

今年度の高等部 3 年生の保護者の進路選択に向けての意識が高く、夏休みの現場実習の時点ではほぼ希望が固まっていた。

#### ② 授業アンケートについて（教頭）

6 月は参観週間、9 月は参観日を指定した状態でアンケート集計を行った。回答数は 9 月が多い。集計より「1、そう思う」「2、だいたい思う」の回答が多い。自由記述欄でいただいたご意見は、校長室便りで保護者に向けて開示している。

#### ③ 学校自己診断アンケートについて（教頭）

保護者アンケートを中心に分析結果を報告。設問 26 のうちほぼ肯定的回答 90%を超えていた。学校の施設や設備について、学校ホームページの閲覧数に関わる設問において肯定的回答が 90%を切っていた。

#### ④ 平成 30 年度第 64 回近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究協議会（首席）

府外、学校外を含めて 204 名の参加者があった。公開授業やポスター掲示、教材展示、視線入力やボッチャの実演、午後からの分科会と、どれも大盛況に終えることができた。

（会長）実践を校外に発信していくことは大事。ポスター発表等の取り組みは良かった。

#### 4 協議

① 平成 30 年度「学校経営計画」と「運営方針」について（校長）

中期目標は 4 年間で想定している。その 1 年目として本年の目標を掲げている。

コミュニケーション力向上や授業改善については、今年度は近肢研の準備と絡めながら取り組んでいった。

視線入力装置を用いた授業実践を小中学部で行っている。子どもはゲーム感覚で取り組んでいる。今後これまでの実践をまとめていく。

発達に関するアセスメント力の向上については、講師となる専門家のアPOINTは取れているので今後講習を行っていく。

重度心身障がい者施設「すくよか」での新規訪問指導については、「和らぎ苑」訪問学級担当教員 5 名による体制をとっている。

地域支援推進準備室については、現在準備を進めている。

羽曳野市立高鷲南小学校とビジョントレーニングの共同研究に取り組んでおり、成果について検証中である。

ボッチャ甲子園出場に向けて、参加生徒の参加費負担が増えているのが現状。今年度はTシャツを作製し販売することで生徒の参加費を捻出した。今後試合で経験を積み、来年のボッチャ甲子園出場を目指す。

国の医療的ケア検討モデル校に出向き、高度医療サポート看護師配置校の実践を学んでいる。

（委員）視線入力での子どもの反応がよく興味を持っている。これからも続けていってほしい。

（会長）コミュニケーションについて取り組んでいることに興味がある。子どもの気持ちの表出手段としてICT機器を活用していくのはよい。タブレット端末を購入したい場合は、福祉関係からお金の補助が出ることもある。

（委員）ビジョントレーニングは、大きな成果が見られるのではないかと。今後も経過を教えてください。ボッチャの試合に参加した子どもの感想より、子どものやる気が感じられた。

（会長）ボッチャ競技に取り組んでいる大阪府立大学との連携も考えていってはどうか。子どもたちに「くやしい」「次がんばろう」と思う力をつけていってほしい。

（委員）高度医療サポート看護師が配置されているモデル校は毎年変わるのか。

（校長）付き添い保護者の負担軽減の課題解決に向けて、保護者付き添いなしの検証を行っている段階。茨木支援学校、箕面支援学校の2校からはじまり、今年度は4校がモデル校となっている。

（会長）保護者の付き添い軽減にはなるが、子どもにとってはどうなのかについても同時に考えていく必要がある。

（委員）ヒヤリハットやヒヤリツイトなどの方法を学校から学んで所属事業所でも取り組んでいる。

#### 5 協議のまとめ（会長）

次回連絡

閉会

（以上）